**第３９回観察会　2006年６月15日木曜日 12:05～12:55　雨**

**テーマ『植物園のきのこたち』**

**☆ガイドのレポート**

あいにくの雨天となりましたが観察会の時間帯だけはほとんど雨も降らず、大勢の参加者の方で賑わいました。しかし長い間雨が降らず、乾燥気味の地上にはきのこが少なくて残念でしたがこれも自然現象ゆえに仕方がありません。

１．おそらく今日の雨で地中には充分な水分が浸透し、気温もさらに上昇が見込めるので来週にはキヌガサタケもレースのドレスを地上まで纏い、きのこの女王と呼ばれるにふさわしい姿で登場してくれそうです。

２．フウの実から発生しているヒゲのような細長いきのこが見つかりました。このきのこは*Xylaria liquidambar*という学名がつけられていますが、和名はまだついていない子嚢菌類です。通常子嚢菌は子嚢という透明の細長い袋の中に8個の子嚢胞子を作りますが、トリフなどの子嚢菌は球形の子嚢の中に２～７個の子嚢胞子を作ります。顕微鏡観察で×100～400で観察すると、とても面白い世界が展開します。コキララタケが発生していましたが、このきのこは担子菌類です。担子器という器官の先端に4本の突起があり、その突起の先端に担子胞子を生じます。

３．乾燥が続き、菌類の発生が極端に少なくなるとサルノコシカケ類などの硬いきのこが目立ちます。今日も硬質菌が目立ちましたが、梅雨が明ける頃にはテングタケの仲間などが多発するだろうと予想しています。

４．参加者の方から、コキララタケは「食べられますか？」という質問がありました。食べられるのですが、よほど若い菌でないとすぐに老熟し、液化が始まりますのでタイミングが微妙です。どんな食用菌でも老熟に向かっているきのこは危険です。またヒトヨタケ科にはアルコールと一緒に食べると中毒するものがあるため、充分な警戒が必要です。2年前の秋に、これまで優秀な食用菌であった「スギヒラタケ」を食べて、十数名が落命されたことはまだ記憶に新しい悲惨な中毒事故です。野生のきのこを食べることには常に危険が同居しているのです。このスギヒラタケによる事故原因の解明については現在も調査が継続されています。

本日観察できた菌類  
キヌガサタケの幼蕾（まだ子実体となっていない状態）、オオホウライタケ、スエヒロタケ、シロハカワラタケ、フウの実に生じるクロサイワイタケ科の1種、多孔菌科の1種、コキララタケ、ハチノスタケ。  
注）文中の「キヌガサタケ」は、レースが伸張してみると、すべてが「マクキヌガサタケ」でした。幼蕾の時点では全く同定は不可能ですのでご了承ください。

ガイド：小寺祐三さん（きのこアドバイザー、関西菌類談話会会員）

[資料](http://ja3yaq.ampr.org/~bgarden/kansatu/kansatu39shiryo01.pdf)

[京都大学ＨＰトピックス](http://ja3yaq.ampr.org/~bgarden/kansatu/kansatu39shiryo02.pdf)に掲載されました。

[京都新聞電子版](http://ja3yaq.ampr.org/~bgarden/kansatu/kansatu39shiryo03.pdf)に掲載されました。

**☆植物フェノロジーリスト**

開花：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　テイカカズラ、ヤマアジサイ、ガクアジサイ、ズイナ（ヨメナノキ）、ウツギ、ボダイジュ、ナンテン（以上、木本）。ヤマコンニャク、オオハンゲ、ドクダミ、ノカンゾウ、コヒルガオ、ショウブ（サトイモ科）、キヨスミギボウシ、ヒメコウホネ、ハアザミ、ヒツジグサ、シロツメクサ、メノマンネングサ、ニワゼキショウ（以上、草本）。

結実：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ナツミカン、ロウアガキ。

レポート：大石高典(京都大学理学研究科生物科学専攻動物学系)

**☆参加者の感想**

参加者の感想文です。実名・匿名の指定がないかたはすべて匿名にいたしました。ご了承ください。

* 日頃通りすぎて気づかない世界を知りました。たいへん勉強になりました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（人文研　鳥居裕子さん）
* きのこ知れてよかったです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（農学研究科院生のかた）
* キヌガサタケのベールがパラパラっとなるところをみてみたいとおもいました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（農学研究科　高瀬功志さん）
* 都会の中にも多種多様の植物が自然に近い状態で生育しているのに感激した。「きのこ」の解説も大変わかりやすく有難かった。　　（近所のかた）
* 普段気にとめない所にもたくさんのキノコありました。　　　　　（農学研究科　齋藤勝義）
* めずらしいキノコが見られて楽しい観察会でした。　　　　　　　（学外のかた）
* キノコに興味があったので来ました。キヌガサタケの幼菌が見れてよかったです。また参加したいです。　　　　　　　　　　　　　（農学部のかた）
* キヌガサタケに会いたくて来ました。昨年は6月29日に膜がおりていました。今年も・・・・・ザンネン。　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* 普段見過ごしていたキノコのことがわかりました。詳しいご説明をいただきまして有難とうございました。　　　　　　　　　　　　（学内のかた）
* 小学生の頃に初めてキノコに興味を持ちました。今日は数種しか見ることが出来なかったので、もっと多くのキノコを観察したかったです。キノコが大好きなのでまたキノコの観察会をしていただきたいと思っています。ありがとうございました。　　　　　　　　　（大府大　鷲谷寧子さん）
* 食べられるキノコをもっとみたかったです。　　　　　　　　　　（文学研究科院生のかた）
* 講師の方が丁寧に説明して下さったので、難しいキノコも身近に感じることができました。最近乾き気味だったのでキノコの種類が少なかったのが残念でした。1週間後にキヌガサタケでも見に来ようと思います。9月にも発生しますが・・・。　　　　　　　　　　　　（農学研究科　東勇太さん）
* 京大植物園で珍しいキノコをたくさん見ることができてよかったです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（文学研究科のかた）
* いつも横を通っているのですが、今回始めて植物園に入りました。園きっかけとなった観察会に感謝します。キノコアドバイザーの方もおもしろく説明して下さり満足でした。（キノコに関してはよく分かりましたが、樹木の名前に関して見やすいプレートや写真のついた地図などあると便利ですな）　　　　　　　　　　　　　　　　（学内のかた　星野光範さん）
* キノコの名前がまだ分かっていないものが多いというのを初めて知りました。この植物園から、新種のキノコとして名前付けを登録できるキノコがないものかと思いました。　　　　　　　　　　　（人間・環境学研究科のかた）
* 雨の日の森は気持ちよいです。　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた　稲庭篤さん）
* キノコは沢山なかったので少々残念でした。参加者の方々にもっとキノコらしいキノコがみていただければよかったと思いました。この地はとても豊から菌相があるように思いました。　　　　　　　（学外のかた）
* 吉田山などでいつもキノコを見ていますが、こういう目で見るのはとても新鮮でした。ナビゲートしていただいてありがとうございました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* またまた和名のついていない「きのこ」がたくさんあることを知りました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学内のかた）
* キノコに感動しました。すばらしい！　　　　　　　　　　　　　　　（農学研究科のかた）
* きのこは形がいろいろでおもしろかったです。　　　　　　　　　　　（農学研究科のかた）
* とても面白かった。初めて来たのだけれどまた参加したい。　　　（理学部のかた　瀧口達矢さん）
* キノコアドバイザーの方がなんでもわかってすごかったです。　　（学内のかた）
* 小学生の頃「京都の理科ものがたり」（吉見先生記述）で魅せられ、ずっと1度見たかったキヌガサタケにやっとあえました。しかもたくさんでびっくりです。ぜひレースが開いた時も見てみたいです。次回の観察会も楽しみにしています。　　　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* 今回は、参加者の数が多かったのでガイドの方を大変忙しくしてしまいましたが、きのこに関する如何なる質問にも丁寧に答えられていたきのこアドバイザー、小寺さんはかっこよかった。また、植物園の中には、落葉落枝、また自然倒木した朽木などがそのまま放置されているので、「腐朽菌のためには最高の環境になっている」という説明には納得しました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（理学研究科動物学教室　大石高典さん）